

静岡県立大学グローバル地域センター主催の中国社会制度研究会(しずおか健康長寿財団後援)が2018年12月19日(水)13:00~17:00静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ11階会議ホールで200人の参加で開かれた。

プログラムは静岡県立大学 鬼頭 広学長の挨拶で開始。

- (1) 基調講演は、中国から来日した中国健康養老集团有限公司
養老運営総監俞氏の「中国養老健康事業発展の方向と課題」
- (2) 研究発表は、東京経済大学経済学部准教授李蓮花氏の「中国高齢社会の最新事情」
- (3) パネルディスカッションは、静岡県立大学グローバル地域センター特任教授柯氏が司会を務めた。

会議は同時通訳レシーバーを使用、撮影は禁止された。
以下、聴講所感を述べます。

1. 建国1949年以来1951年一部年金制度導入。
2. 1980年代一部健康保険制度導入。
3. 介護保険の導入は孝道思想(子は親を見る思想)が強く導入なし。
4. 現在の問題点は少子化の進行、高齢化のスピード化、農村部と都市部の所得格差の拡大。

福祉の面でみると、中国は日本の1980年代レベルにあり今後は日本の福祉対策を参考にしながら和階社会(皆が豊かになる社会)を進めたいと結んだ。
静岡県立大学グローバル地域センターは同大学の附属機関として設立された調査研究機関です。地域の課題についてグローバルな視点で調査研究を行うとともにその経過を情報発信することにより地域の発展に寄与しています。今回の参加は、センターからの講演会の案内を受け参加しました。聴講者は学生、福祉関係者そして国際交流関係者が多くみられました。中国の社会保障の享受は一部の特権者に偏るようだ。そして発表者も現社会体制下で言論の制約を感じた。

静岡県立大学グローバル地域センター
〒420-0839
静岡市葵区鷹匠3-61もくせい会館2F
TEL054-245-5600

(取材富士富士宮地区特派員 原 義廣)